

## 第2部 授業改善を効果的に進めるために

### 1 学習指導案の作成

学習指導案の作成は、授業の具体的な設計を表現する行為といえます。マネジメントサイクルにおいては、実態把握（Assessment）後の計画（Plan）の段階にあたります。作成した学習指導案をもとに授業を実施（Do）し、実施した授業を学習指導案に照らして評価（Check）し、改善（Action）していきます。学習指導案は、授業改善を効果的に進める上で、重要な役割を担っています。

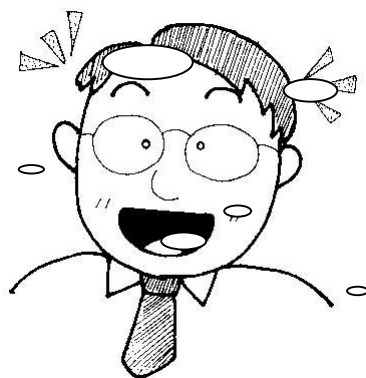
#### （1）学習指導案作成の意義

- 授業の設計図として
  - ・ 授業のイメージ化
  - ・ 授業におけるポイントの明確化

- 教師間の連携の資料として

- 授業後の分析や反省の資料として

- 説明の資料として



## (2) 障害児教育における学習指導案

### 作成上の留意点

- ① 目標設定の視点として、障害に基づく困難性だけを指摘するのではなく、現時点での興味・関心の対象や能力等に基づいて目標を設定する。
- ② 目標達成のために必要な能力や技能等について、一人一人の実態を十分に把握しておく。
- ③ 個々の目標と課題（学習内容）を計画する。  
（学習活動は一つでも課題は個々の実態に応じて用意する。）
- ④ 個々の課題における指導者の配慮事項を計画する。



一人一人の実態から出発し、  
個への適切な対応が示されていること

- 障害の状態や単元に関する興味・関心などが一人一人違う
- 同じ場面でも、課題は一人一人違う、支援の仕方も一人一人違う
- 複数の指導者の役割を示したい・・・

これらのことを  
書き表すために  
は・・・



様式参考例

〇〇〇〇学習指導案

指導者 〇〇〇〇 (T1)  
 〇〇〇〇 (T2)

- 1 日時, 場所 ② p. 10
- 2 学部, 学年, 学級 ① p. 9
- 3 単元 (題材) 名 ③ p. 10
- 4 単元 (題材) 設定の理由 ④ p. 12
  - 幼児 (児童) (生徒) 観
  - 単元 (題材) 観
  - 指導観 ⑤ p. 14
- 5 単元 (題材) の目標
- 6 指導計画 [全〇時] ⑥ p. 14
- 7 本時の目標 ⑦ p. 15
  - 全体の目標
  - 個々の目標

幼児 (児童) (生徒)	これまでの様子	目 標
A		
B		
C	⑧ p. 17	
D		

- 8 準備物 ⑨ p. 17
- 9 学習過程

学習活動	指導上の留意点 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> </span> 課題, ○支援, ☆評価)				
	A	B	C	D	全体

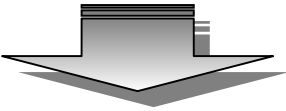
- 10 評価の観点 ⑩ p. 18
- 11 年間指導計画 ⑪ p. 18
  - ねらい
  - 計画 ( ) 月 ~ ( ) 月 「                                  」
- 12 教室内配置図

# ① 指導者

- 本指導案の立案者（メインティーチャー）が分かるように表記します。教師間で連携する際や授業について協議する際に，不明な点などを誰に質問すればよいか分かりやすくなります。
- 複数の指導者がいる場合には，指導者名にT 1，T 2などの記号を付けます。学習過程に個々の幼児児童生徒に対する支援等を明記する際，どの指導者がその支援等を行うかを記号で示すことができます。

《例》  
 指導者 ○○○○ (T 1)  
 △△△△ (T 2)  
 □□□□ (T 3)

《例》  
 指導者 ◎ ○○○○ (T 1)  
 △△△△ (T 2)  
 □□□□ (T 3)



《例》

学習活動	指導上の留意点 ( )			課題, ○支援, ☆評価
	A	B	C	全体
1 . . . . . .	○ . . . ... (T2)	○ . . . ... (T3)	○ . . . ... (T1)	○ . . . . . . . . . . ... (T1)

**T・T方式の形式パターン例**

①一般型

③抽出型

⑤グループ型

②演示型

④補助型

T1, T2 : 教師  
C : 児童・生徒

【引用】  
 辻誠一「できる・わかる・楽しい授業 特別支援教育のコツと技」日本文化科学社，2003，p. 148

## ② 学部, 学年, 学級

- 指導する集団（個別の場合は個人）を示します。

《例》

〇〇部 〇〇年 〇〇組  
〇〇部 〇〇年 〇〇グループ

## ③ 単元（題材）名

- 単元（題材）名は，幼児児童生徒の視点に立った表現を工夫しましょう。
- 教科書の「章」や「節」を単元（題材）名とする場合もあります。

### 単元（題材）名の工夫

- ・活動がイメージしやすいような表現
- ・活動の意欲が高まるような表現
- ・言いやすい表現



《例》

「海の香りのする器」・・・・・・・・・・美術科  
「ゆらりゆらり」・・・・・・・・・・自立活動  
「星の入ったカレーをつくらう」・・・・・・・・生活単元学習  
「再生紙による祝い袋づくり」・・・・・・・・作業学習



### 単元か題材か…

単元とは、複数の題材を計画的、系統的に組織した一つのまとまりであり、題材とは、単元を構成する一要素。

#### 【引用】

阿部芳久「障害児教育 授業の設計」日本文化科学社, 1997, p. 117

## 単元

- ・ 単元(unit)とは、学習指導における教材や活動のひとかたまりをいう。【引用】牧昌見(編)「新学校用語辞典」ぎょうせい, 平成5年, p. 791
- ・ 単元とは①教授内容(学習活動内容)のあるひとまとまりであり、②より広範囲の教授内容(学習活動内容)の体系を構成する一単位である、と規定できる。〔単元の事例〕文部省検定済教科書を「主たる教材」として使用することが義務づけられている日本の学校教育では、「単元」はまずは教科書の項目という形で意識されることが通例である。【引用】天野正輝(編)「重要用語300の基礎知識1巻『教育課程重要用語300の基礎知識』」明治図書, 1999, p. 41

これまでの例より…

中澤和彦(編著)「入門 発達障害児の授業法 一指導案づくり・導入・展開・評価の原理」学習研究社(1993)には、文部省(現文部科学省)の特殊教育教育課程研究指定校等の学習指導案をもとに、「単元(題材)」の使い方について記されています。以下は、その要約です。

- 生活単元学習以外は、ほとんど「題材」となっている。
- 遊びの指導, 作業学習, 日常生活の指導も「題材」が多い。
- 小学校の各教科の学習指導案では、国語, 算数, 理科, 社会について「単元」としていることが多く、音楽, 図工, 体育などは「題材」としている場合が多い。

#### ④ 単元（題材）設定の理由

- 主には、幼児（児童）（生徒）観，単元（題材）観，指導観の三つの内容を記述します。
- 単元（題材）観，幼児（児童）（生徒）観，指導観の順に記述する場合がありますが，障害児教育，とりわけ幼児児童生徒の実態から指導計画を立て，単元（題材）を設定していくことの多い知的障害教育においては，幼児（児童）（生徒）観から書き始める方が書きやすいでしょう。

幼児児童生徒の実態はこうだ

（人数，障害の状態，発達の様子，特性，単元（題材）に対する興味・関心や経験など）

だからこの単元（題材）を設定した

（設定した単元（題材）で指導すると，こんなことが期待できる）

指導に当たってはこうしたい

（指導する上での方法（手だて）や留意事項など）

#### 単元（題材）設定の理由

##### 幼児（児童）（生徒）観

単元（題材）に対する幼児児童生徒の認識や学習経験などの児童生徒の実態を記述する。

##### 単元（題材）観

取り上げた単元（題材）の意義や単元（題材）に対する考え方及び単元（題材）におけるねらいなどを明確にする。

##### 指導観

単元（題材）観，幼児（児童）（生徒）観の関連から有効な指導の在り方を考え，指導方法や学習活動などを明確にする。

## 《例》 生活単元学習「秋をみつけよう」

- 本学級は、1年生2名、2年生3名の計5名で編制されている。児童は、季節に応じた行事や活動を取り入れることで自然に対する興味・関心が高まっている。7月に行った「海で生き物をさがそう」の学習では、貝やどかりを見つけ教室で飼育した。2年生は昨年度、サツマイモを植えて収穫してきているので「秋」と言えば、一番に「焼き芋」と言っている。「どんぐりごま」を作って遊んだ経験もあり、木の実を集めておもちゃを作りたいと思う児童もいる。1年生については、自然とかかわったり、友だちとかかわったりした経験があまりないが、具体物の用意や明確な学習活動の提示により、意欲的に取り組むことができる。
- 生活単元学習では、季節に応じて野菜作りをしたり、調理をしたり、集会をしたりして、生活の力を高める体験活動を取り入れている。本単元では、虫の鳴き声や木の葉の色などから季節の移り変わりに気づき、秋を探しに地域を探検したり、絵本を読んだり、秋の歌を歌ったり、おもちゃを作ったり、収穫したりして、自然に親しんだ生活の創造をねらうことができる。「秋」は抽象的な言葉であるが、葉が紅葉して周りの色彩が変化したり、サツマイモを収穫したりなど、具体的な変化の理解を促し、実感しやすい。また「〇〇の秋」など行事を組みやすく、毎年繰り返すことのできる楽しい題材である。これらのことから児童にとっては親しみやすく、先に述べたような活動を自ら展開することができる。
- 指導に当たっては、地域の方と保護者を「〇〇（注：〇〇は学級名）美術館」に招くことを最終の目標として毎時間の活動を位置づけていく。学習の流れが把握できるように計画表を作成・掲示して毎回確認する。単元の導入で「秋」と聞いて思い浮かぶものを出し合い、絵本や歌で「秋」のイメージを深めたい。秋の気配を感じるために地域探検に出かけ「秋見つけ」をしていく。落ち葉、松ぼっくり、栗、どんぐりなど、見つけたものを材料として利用したりし、作りたいものを選んで「ひみつの秋」として作っていく。おもちゃを作る場面では、作ったもので遊ぶことを通して達成感を高め、同時に遊ぶことを目的にして作る意欲を高めたい。そのため、できるだけ実態に合わせて、細かな作業よりも「葉っぱをはる」などの簡単で基本的な作業になるようにする。いくつかのアイデアを用意し、そこから選ぶように設定する。  
「秋」に関係したものを教室に飾り、イメージを深める。意欲的に作る中で、はさみや糊、セロハン・テープなどの用具使用の方法を獲得したり、そのための指先の動かし方を練習したりしたい。秋らしい景色があれば写真も撮っておき、視聴覚機器を用いて見せ、意欲の継続を促したい。また、作ったものを飾ったりする中で、10月下旬に行われる校内の学習発表会の劇につなげたい。さらに他学年との焼き芋大会にも関連・発展するようにしたい。そして、自分たちが見つけて作った「ひみつの秋」や写真を展示して「〇〇美術館」を開館し、お客さんを招待していくことで児童が意欲と自信をもつようにしたい。

集団の構成等

単元（題材）に対する  
興味・関心

単元（題材）にかかわ  
るこれまでの経験

設定した単元（題材）は  
（この単元（題材）で指  
導すると・・・）

【文末例】

「～をねらうことができ  
る。」

「～を実感しやすい。」

「児童にとっては～」

「～を自ら展開するこ  
とができる。」

指導に当たっては

【文末例】

「～していく。」

「～の（イメージ）を深  
めたい。」

「～ように設定する。」

「～達成感を高め、～意  
欲を高めたい。」



## ⑤ 単元（題材）の目標

- 学習指導要領を踏まえ、単元（題材）全体の指導目標（知識、理解、技能、態度など）を記述します。

《例》

**興味・関心を高め、意欲・態度を育成するという観点からの目標設定**

- 自ら進んで取り組もうとする態度やみんなで一つのことに取り組もうとする態度を育てる。
- 豆まきにおいて、ひろった豆を数える、分けるなどの数量的な活動に関心をもつ。

**経験させ、慣れ親しませるという観点からの目標設定**

- 自分たちで作って食べる楽しさを味わう。
- もよう作りのための多様な表現技法を経験する。

**特定の知識や技能の習得を意図した目標設定**

- 一対一対応で、集合の大きさを比べることができるようになる。
- 適切な助詞を用いて、文の形で話すことができるようになる。

## ⑥ 指導計画

- 単元（題材）の指導計画を記述します。

### 指導計画（全○時間）

第1次 ○○○○○○ . . . . . ○時間

第2次 ○○○○○○ . . . . . ○時間

（本時○／○）

第3次 ○○○○○○ . . . . . ○時間

第4次 ○○○○○○ . . . . . ○時間

## ⑦ 本時の目標

- 全体の目標  
集団にかかわる目標を記述します。
- 個々の目標  
個々の目標では、「これまでの様子」「目標」を記述します。

### 《例》生活単元学習「学習発表会をがんばろう」

#### 単元の目標

教師や友だちと一緒に、学習発表会の練習や道具作りに楽しんで取り組むことができる。

#### 本時の目標

「これまでの様子」には、児童生徒のこれまでの学習場面での様子、単元に関する実態、目標達成に影響するであろうと考えられる事項などを記述します。

「目標」には、本時における個々の目標を具体的に記述します。

- 教師や友だちと一緒に、自分の衣装を飾ることを楽しむことができる。
- 個々の目標

児童生徒	これまでの様子	目 標
A 男	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がしたいことやしたくないことについて、教師に言葉で伝えることができる場合がある。</li> <li>・はさみやのり、筆など日常的に使う道具を適切に扱うことができる。</li> <li>・物作りは、継続して取り組みにくい場合があるが、終わりの見通しがもてるとがんばることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな形のフェルトを工夫して組み合わせて、自分がつくりたい模様を作り、アイロンで貼る。</li> <li>・教師と作るものについてやりとりをしながら、衣装を飾る活動に取り組む。</li> </ul>
B 女	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師や友だちの様子を手がかりにして、活動内容を理解することができる。</li> <li>・はさみやのり、筆など日常的に使う道具を適切に扱うことができる。</li> <li>・新しい用具は、教師の師範をよく見て使い方を知ろうとする。</li> <li>・物作りでは、手順が分かると自分から取り組むことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな形を組み合わせて、自分でフェルトを切って貼ったりして、衣装を飾る。</li> <li>・教師の師範をよく見て、手順を理解したり、作る模様の手掛かりにしたりして、自分から衣装を飾る活動に取り組む。</li> </ul>

【参考】岡山大学教育学部附属養護学校 平成13年度研究発表会要項

この例では、学校の研究主題に迫るため、これまでの様子を「人へのかかわり」「ものへのかかわり」「活動への取組み」の三つの観点で記述しています。



## 目標の記述のポイント



### I 群

～がわかる ～を意識する ～に気  
付く ～知る ～考える ～関心をもつ  
～思い出す ～達成感をもつ  
～味わう ～楽しむ

抽象性が高いため、評価が困難。目標達成時の児童生徒の姿を予測し、その姿が見られたときに目標達成と評価する。

### II 群

選ぶ 分ける 言う 話す 答える  
書く 切る はる 取り組む 発表  
する

具体性が高いため、記述どおりの活動が見られれば目標達成と評価する。ただし、表面上はできていても、「でき方」によっては目標達成といえない場合もある。

### I + II 群

～という見通しをもって～する  
～を知り～をする  
～することを通して～に関心をもつ  
～を考えて～を発表する  
～を意識しながら～する  
～をすることを通して見通しをもつ  
～に関心をもち～を書く  
～を思い出し～を書く

I 群の内容、II 群の内容それぞれに評価が必要。II 群のように具体的な活動を目標とし、これを適切に評価するためにその取り組み方も明確にしようとする、実際には I + II 群の形が多くなる。

### 【参考】

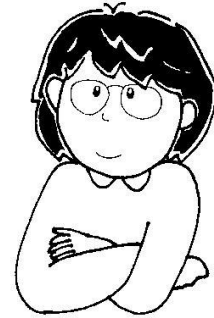
太田正己（編著）「障害児教育&遊びシリーズ⑤『障害児のための授業づくりの技法』」  
黎明書房，2000

幼児児童生徒の実態に応じて適切な目標を記述しましょう。学習指導要領や学習指導要領解説が参考になります。



## ⑧ 準備物

- 本時の学習活動に必要な教材・教具などを記述します。
- 記述する位置は様々に工夫できます。  
また、教材・教具をイラストで示すこともできます。



## ⑨ 学習過程

- 授業の流れが分かるように記述します。
- 活動における課題，課題達成のための支援，幼児児童生徒の学習の様子や課題達成の状況に関する評価の観点を記述します。

各学習活動における、個々の課題を記述します。

全体欄には、全体に共通する留意点、環境・状況設定等について記述します。

《例》 国語科：「思い出して書く」

学習活動	指導上の留意点 (□課題, ○支援, ☆評価)			全体
	A	B	C	
3 文をつくる。 (20分)	<p>絵や写真を見て、「何が」「どうした」の単語カードを選ぶ。</p> <p>○絵や写真を見せ、対応したことばを聞き出しながら活動を促す。(T1)</p> <p>○絵や写真は1枚ずつ提示し、一つの課題ができたなら誉め、次を提示する。(T1)</p> <p>☆絵や写真にあった単語カードを選んでいる。</p>	<p>できごとの順序に気をつけて、5枚の文カードを並べる。</p> <p>○順序に困っている場合は、提示する文カードの数を減らして選択しやすくする。(T2)</p> <p>○できた文を読み、順序を確かめるよう促す。(T2)</p>	<p>できごとの順序を意識している。できごとの順序どおりに、文カードを並べている。</p>	<p>○校外活動の地図を掲示し、振り返ったり、思い出したりできるようにする。(T1)</p> <p>○自分で考える時間を十分に確保する。(T1)</p>
	<p>選んだ単語カードをワークシートに張る。</p>	<p>並べた文カードをワークシートに視写する。</p>	<p>並べた文カードをノートに視写する。</p>	<p>課題の達成に向けての支援を具体的に記述します。</p>

全体としての活動を簡潔に時系列に記述します。また、時間配分についても明記します。

どの場面でも、どのような支援をし、どのような観点で幼児児童生徒の学習の様子や課題達成の状況の評価するのかが分かりやすくなります。

T1, T2などの記号で、複数いる指導者の誰がその幼児児童生徒の指導を担当するのかを明記します。



### 支援の内容例

- 幼児児童生徒の興味・関心を喚起するための教師の働きかけ
- 幼児児童生徒の活動を促すための教師の働きかけ
- 幼児児童生徒の活動が停滞したとき、その状態を改善するための教師の働きかけ
- 幼児児童生徒に対する健康や安全への配慮
- 幼児児童生徒に教材・教具を提示する際の配慮

【参考】

阿部芳久「障害児教育 授業の設計」日本文化科学社、1997

支援の内容は  
一人一人  
具体的に！

### 評価（授業評価）の観点

- 各学習場面で設定した課題の達成状況に関する評価は学習過程（本時案）に記述されることが多いようですが、授業評価（指導の適切性に関する評価）は、指導者が授業後に自身の指導を振り返る意味からも「学習過程」の項目の後に記述されることが多いようです。

### 評価（授業評価）の例

- 発問や説明は分かりやすかったか。
- 個に応じた指導をしていたか。
- 内容の分量は適切であったか。
- 教材・教具は効果的であったか。
- 本時の目標は達成されたか。

など

### 年間指導計画

- 本単元（題材）が、年間指導計画の中でどのように位置付いているかが分かります。
- 別紙として添付する場合があります。

## 2 授業観察の実施

学習指導案の事前検討（読み合わせ）においては、研究テーマに沿い、授業研究の視点に基づいた検討課題を設定し、学習指導案の分析を行います。また、授業観察者は、授業観察を行いながら、例えば、次に示しているような「授業評価表」に評価や気づきを記入します。

このことにより、授業研究の視点に基づいた授業観察を行うことができるとともに、授業後に実施する研究協議会における「研究協議の柱」も明確になり、効果的な研究協議が可能となります。

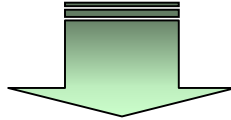
授業評価表（参考例）

領域・教科名		評価者氏名	
授業実施日時	平成 年 月 日 ( ) 第 校時 ( : ~ : )	指導者氏名	
学部・学年・学級	部・第 学年・		
事項	評価観点	評価	気づき（自分ならこうする等具体的に）
実態把握	個々の障害の状態及び発達段階や特性等を的確に把握している	3・2・1	
	個々の経験や単元（題材）に関する興味・関心を的確に把握している	3・2・1	
目標設定	個々の実態を踏まえた目標を設定している	3・2・1	
	評価しやすい具体的な目標を設定している	3・2・1	
学習過程	個々の目標を達成するために適切な配慮をしている	3・2・1	
	個々の実態に応じた適切な教材・教具や補助用具等を活用している	3・2・1	
	学習活動の展開（導入、展開、まとめ）や時間配分を適切に設定している	3・2・1	
	個々の実態に応じた適切な活動量を確保している	3・2・1	
	メインティーチャー、サブティーチャーの役割分担を明確にしている	3・2・1	
評価	本時の目標を達成している	3・2・1	
	個々の目標を達成している	3・2・1	
	個々の実態、目標、学習活動、評価は一貫性がある	3・2・1	
全体をととしての所見（感想、意見、質問等）			

### 3 研究協議の実施

#### 事前打合せ

研究授業後、授業者、司会者、指導・助言者により研究テーマに沿った「研究協議の柱」及び進行について確認します。



#### 研究協議会

##### 客観的な資料の用意

ビデオ記録、発問記録、板書記録等、授業に係る客観的な記録を用意し、必要に応じて分析したものを提示しましょう。また、研究部は、「研究協議の柱」に係る研修資料を準備しておきましょう。

##### 「研究協議の柱」の明確化

「研究協議の柱」を出席者全員に明確に示しておきましょう。

##### 授業者からの振り返り

授業者は、学習指導案を根拠として具体的かつ明確に授業の振り返りをしましょう。

##### 授業改善のための発言

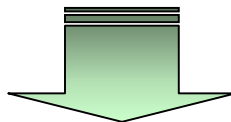
授業観察者は、「研究協議の柱」に基づき、ただ感想を述べるのではなく、学習指導案及び授業中の事実に基づいて発言しましょう。その際、授業目標を達成するための手だての在り方等について改善策を提案するなど建設的な発言をしましょう。

##### 司会者の役割

司会者は、授業改善のための研究協議であることを積極的に出席者に意識づけるとともに、「研究協議の柱」に沿って問題点を整理するよう進行を工夫しましょう。また、指導・助言者の指導・助言の時間を適切に確保しましょう。

##### 改善点の明確化

研究協議のまとめでは、「研究協議の柱」に基づき、授業改善のために中心的に協議された点、今後の改善に向けた課題等を明確にし、出席者全員で確認しましょう。



#### 事後のまとめ

研究協議のまとめを校内に周知するとともに、授業改善の取組みについて、自校ホームページへの掲載、学校だよりや学年・学級通信への掲載、研究紀要の発刊等により、広く情報公開・情報発信を行いましょう。



#### 4 公開授業研究会の実施

【参考例】

